

ringJAN™ Series パラメータ設定ガイド



ウェルコムデザイン株式会社

URL: www.e-welcom.com
e-mail: welcom@e-welcom.com

東京 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-3 神田大木ビル
TEL. 03-5295-7250(代) FAX. 03-5295-7252

神戸 〒651-2242 神戸市西区井吹台東町1-1-1 西神南センタービル
SDC 〒651-2102 神戸市西区学園東町6丁目2-3-1F

TEL. 078-993-6010(代) FAX. 078-993-6020 [本部 / SDC]

(※) SDC stands for Support and Delivery Center

製品保証と注意事項

「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より1年間とさせていただきます。

「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

- 需要者側の不適当な取り扱いならびに使用
- 故障の原因が納入者以外の事由による場合
- 外装部品の損傷
- 自然劣化・消耗部品
- 需要者側で改造・修理を行った場合
- 天災地変による場合

尚、ここでいう保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

「修理」

修理は全てドック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

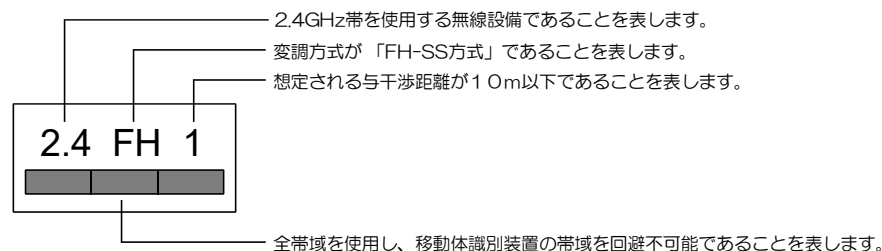
「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第15条補足J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（ラジオレビなどの受信障害）が起こることがあります。

「電波について」

■ 電波に関する注意 ■

- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用場所を変更するか、電波の発射を停止してください。
- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術適合証明を受けています。本製品の分解/改造は違法となります。
- 交通機関内や医療機関内などでは、本製品のご使用はお控えください。電子機器や心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては



「その他」

- 納入品の価格には、サービス費用は一切含んでおりません。

安全上の注意

- ◇ ご使用の前に本書をお読みになり、正しく安全にご使用ください。
- ◇ 本書は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。



使用上の注意

- ✓ レーザ照射窓を覗いたり、レーザービームを直視することは絶対にしないでください。
- ✓ 分解・改造しないでください。発熱・火災・けがの原因となります。
- ✓ ガス・火薬など可燃性物質が発生する場所での使用はしないでください。破裂・発火・火災の原因となります。
- ✓ 衝撃を与えたり、落としたり、本機の上に物を置いたりしないでください。
- ✓ 小児の手の届くところに置いたり、使用させないでください。
- ✓ 雨や水などがかかる場所で使用しないでください。
- ✓ スト랩を持って振り回したりしないでください。破損やけがの原因となります。
- ✓ 炎天下の車内や冷凍庫など高温・低温になる場所には放置しないでください。
- ✓ 湿度の高い場所や誇りの多い場所には放置しないでください。
- ✓ 使用温度範囲内で使用してください。
- ✓ 静電気の起こりやすい場所やテレビなどの磁気が発生する機器のそばには置かないでください。
- ✓ 安定しない場所に放置、保管しないでください。
- ✓ 低温の場所から高温の場所へ移動すると、結露が発生する恐れがあります。結露が発生した場合は、水滴が完全に蒸発するまで、本機をしようしないでください。
- ✓ 本機のクリーニングは、柔らかい布で軽くからぶきするか、中性洗剤に浸した柔らかい布をよく絞ってから軽く拭いてください。

充電機および充電器・充電に関する注意（前項目に加え、下記の事項に注意ください）

- ✓ 付属の AC アダプタ以外は、絶対に使用しないでください。発熱・火災・けがの原因となります。
- ✓ 異物を入れないでください。ショートや発熱により、火災・感電の恐れがあります。
- ✓ ACプラグや電源コードを引っ張ったり、ねじったり、負荷をかけたり、加工したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- ✓ ACプラグや電源コードが傷んだ場合は、すぐに新しいものと交換してください。火災・感電の原因となります。
- ✓ 濡れた手で電源の抜き差しを行わないでください。感電の原因となります。
- ✓ 充電は、必ず 0~40℃の温度範囲で行ってください。
- ✓ 指定以外の充電機を使用しないでください。
- ✓ 充電機は、デバイスから取り外し、金属などが無い 0~40℃の温度範囲の場所に保管してください。
- ✓ 充電機を充電しても動作時間が短い場合は、充電機の寿命です。新しい充電機をお求めください。
- ✓ ご不要になった充電機を廃棄する場合は、各自治体の条例に従い、正しく処理してください。

充電機に関する注意

充電機の寿命

充電機の特長上、十分な充電を行っても使用できる時間が短くなった時が交換の目安となります。本製品の電池交換は、お客様では行えませんので、弊社又はお近くの販売店までご相談ください。

安全に、より長く充電機をお使いいただくために

- ご購入後、最初に約 3 時間の充電を行ってください。
- 充電は、18~25℃の環境で行ってください。
- ▲危険・警告・注意をお読みの上、正しくお使いください。

▲危険

- 専用充電機以外では充電しない。
- ハダ 付けや分解・改造・変形をしない。
- 火中投入、加熱ショートしない。
- 液漏れした駅が目に入った時は、失明の恐れがありますので、こすらずにきれいな水で十分洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

▲警告

- +- (プラス/マイナス) を正しく入れる。
- +- (プラス/マイナス) を金属物に接触させない。また、金属製のネックレスやヘアピンと一緒に持ち運んだり保管しない。
- 外装カバーをはがしたり傷つけない。
- 液漏れした液が手や衣服に付いた時は直ちにきれいな水で洗い流すこと。
- 液漏れや変色、変形に気づいたときは使用しない。
- 乳幼児の手の届かない所へ保管する。万が一飲み込んだ場合は、すぐに医者に相談する。

▲注意

- 強い衝撃を与えたり、投げつけない。
- 水に濡らさない。
- 充電した電池と放電した電池を混用しない。
- 新旧の電池を混用して使用しない。
- 使用しない時は、機器から取り外す。
- 専用の充電機及び充電機以外は使用しない。

充電機の廃棄について

使用済みの充電機は「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」に加入の電気店またはスーパーなどに設置されているリサイクルボックスに入れてください。



INDEX

1. はじめに	7
1.1. 梱包内容の確認	7
1.2. 外観と名称	7
1.3. バッテリーの充電	7
1.4. LED&ビープインディケータ	8
1.5. ベルcroストラップを取り付ける	8
リダに関する注意	8
1.6. システムコード	9
2. インタフェイスの設定	9
Bluetooth HID 接続	10
USB-HID 接続	10
キーボードおよびマウスの設定 (Bluetooth HID/USB-HID 共通)	10
USB-COM 接続	10
3. トリガモードの設定	11
4. トリガボタンの設定	11
5. レザイヤ/読取照明 LED の設定	11
6. ビープの設定	12
7. 送信デレイの設定	12
読取データ間送信デレイ	12
キャラクタ間送信デレイ	12
8. データフォーマットの設定	13
ターミネータ	13
読取データ桁数	13
ブリアップル/ホストアップル	14
コード ID	14
ユーザコード ID	15
9. 反転バースト読み取りの設定	15
10. 読取照合回数の設定	15
11. キーボード (HID) の設定	16
キーボードレイアウト	16
CAPS ロック	16
数字データ送信	16
ファンクション変換	16
HT/CR/ESC→TAB/ENTER/ESCAPE 変換	16
12. メモリモード	17
最後の読取データを削除	17
バーストフォーマット	17
フィールドセパレータ	18
日付・時刻設定	18
日付・時刻フォーマット	19
8. 読み取りバーストの設定	20
チャイホスト	20
MSI	21
UK Plessey	22
コード 93	22
Telepen	23
IATA	23
インターリーブド 2/5	24
コード 11	25
インタストリアル 2/5	26
マトリクス 2/5	27
コードバースト (NW7)	28
コード 39	30
UPC-E	31
UPC-A	32
EAN-8	33
EAN-13	34
コード 128	35
GS1-128	36
GS1 Databar - Omni & Stacked	37
GS1 Databar - Limited	37
GS1 Databar - Expanded	38
補足 A. アルファバーストコード表	39
補足 A. ASCII コード表	45
補足 C. サブアルファバーストコード表	46
修理依頼書	47

1. はじめに

この度は、弊社リガ式ワイヤレスコードリーダー ringJAN™(以下、コードリーダー)をお買い上げいただきありがとうございます。本書は、コードリーダーのパラメータ設定を行うために用意された別冊ガイドです。基本的な導入方法に関しては、製品に同梱されている導入ガイドを参照ください。

本書に掲載しているコマンドバーコードを読み取ることで、コードリーダーのインターフェイスや読み取りに関するパラメータ設定が行えます。設定されたパラメータは、不揮発性メモリに保存されるため、電源を切にしても設定が消えることはありません。

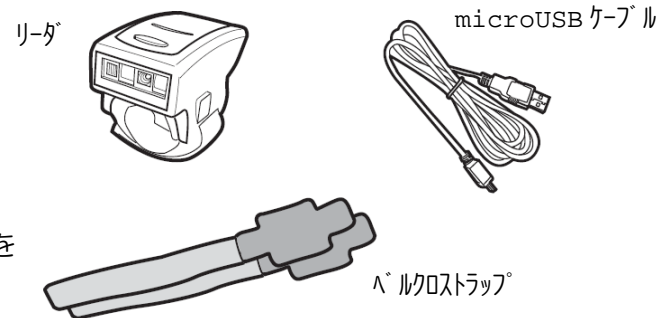
コードリーダーは、パラメータ設定開始コマンドバーコードやパラメータ設定終了コマンドバーコードを使用しないワスキャンタイプのコマンドバーコードを採用しています。

コードリーダーは、ワスキャンタイプのコマンドバーコードをスキャンすると、ピピッというビープ音を鳴動し、コマンドバーコード以外のバーコードをスキャンした場合は、ピッというグッドリードビープ音が鳴動します。

1.1. 梱包内容の確認

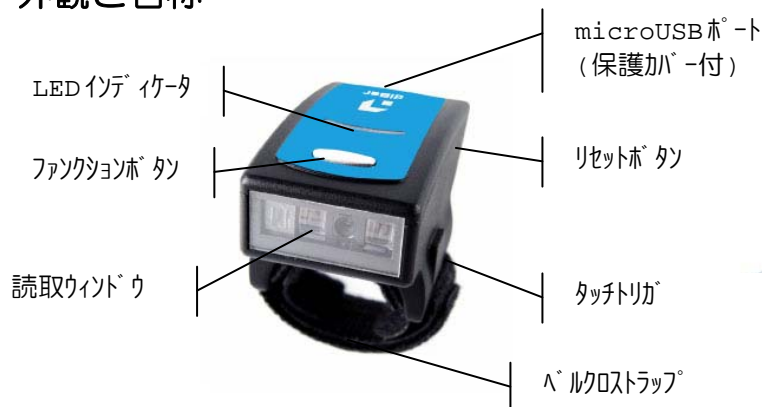
梱包内容は、下記のようになっています。ご確認の上、万一不足、破損品がありましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。

- リガ本体 1台
- microUSBケーブル 1本
- ヘルロストラップ 2個
- 簡易取説(本書) 1冊



製品の個装箱は、修理などで製品を返送する場合、輸送時の損傷を避けるために必要となります。大切に保管してください。

1.2. 外観と名称



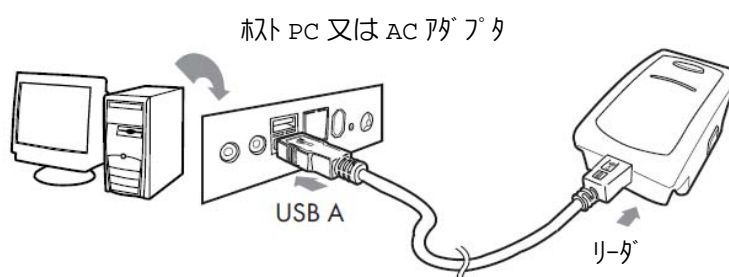
正しいスキャンング



(*) トリガキーを長押しすると、リガの電源が切になります。

1.3. バッテリーの充電

付属のUSBケーブルでリガとPC又はACアダプタを接続し、充電を行ってください。バッテリーが空の状態では、約4時間を要します。



1.4. LED&ビープインディケータ

ステータス	緑色LED	青色LED	赤色LED	ビープ
読取成功	1回点滅	-	-	ビープ 1回
ワイヤ接続成功	2回点滅	-	-	ビープ 2回
コマンドバーコード読取	1回点滅	-	-	ビープ 2回
読取成功(メモリー)	1回点滅	-	-	ビープ 1回
ワイヤ接続切断	3回点滅	-	-	ビープ 3回
無効なコマンドバーコード読取	1回点滅	-	-	ショートビープ 3回
メモリー	1回点滅	-	-	ショートビープ 3回
ワイヤ接続切断中にバーコード読取	1回点滅	-	-	ショートビープ 3回
ワイヤ接続圏外	1回点滅	-	-	ショートビープ 4回(高音・低音・高音・低音)
Bluetooth 検索可能	-	点滅	-	-
ローバッテリー	-	-	点滅	ビープ 5回
充電中	-	-	点灯	-
電源が又はスリープ	-	-	-	-

1.5. ヘルムストラップを取り付ける

1. 下記のようにマグネット面を上にして、短い方のエンドをスロットに通します。
2. 同様にマグネット面が上になるように、長い方のエンドをもう一方のスロットに通します。



3. 下記のように短いエンドのマグネット面を貼り付けて閉じます。
4. 長いエンドも同様にマグネット面を貼り付けて閉じます。







ヘルムストラップを取り外す場合は、上記と逆の手順を行ってください。




リーダに関する注意

- 操作を行う手又はヘルムストラップが水に濡れた状態の場合、リーダにタッチしなくてもレーザーが照射されることがあります。このような状態でも、リーダの動作は可能ですが、バッテリーの消耗が激しくなりますので、手及びヘルムストラップの両方を完全に乾かしてから操作することをお勧めします。
- テックス試験グローブ, 帯電防止グローブ, 木口コットングローブ (ラテックスフリー有り・無し), 安全グローブ, ジム製グローブは、タッチリーダでの動作試験済みです。しかし、タッチリーダの感度を保つため、素手又は可能な限り薄手グローブでの利用をお勧めします。
- ヘルムストラップをきつく締め過ぎず、リーダが動かない程度の適度な強さで装着してください。また、連続して使用する場合は、2時間毎に1分間、ヘルムストラップを緩めて、リーダを指から取り外すようにしてください。指に違和感がある場合や、湿疹・かぶれなど異常を感じた場合は、使用をさけてください。

1.6. システムバースコード

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 A 0 0 1 \$	工場出荷時の初期状態(デフォルト値)にリセットします。	
 A 0 0 7 \$	ファームウェアバージョン情報を出力します。	
 B 0 1 5 \$	コマンドバースコードを有効にします。	
 B 0 1 6 \$	コマンドバースコードを無効にします。	

2. インターフェイスの設定

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 E 0 4 3 \$	Bluetooth HID	<input checked="" type="checkbox"/>
 C 0 0 8 \$	USB-HID インターフェイス	<input type="checkbox"/>
 C 0 0 6 \$	USB-COM インターフェイス	<input type="checkbox"/>

Bluetooth HID 接続

1. トリガボタンを約 1 秒間押し、リダの電源をオンスにします。
2. 「Bluetooth 切断」をスキャンします。ファンクションボタを 5 秒間押し続けても同じ動作となります。
3. 「Bluetooth HID」をスキャンします。
4. マスターデバイスに合わせて、「iOS/MAC/WINDOWS」又は「Android」をスキャンします。
5. PC や iPhone などのマスターデバイスでリダを検索し、ペアリングを行います。
6. 接続が完了すれば、ビープを 2 回鳴動します。

Bluetooth 切断  E 0 3 1 \$	Bluetooth HID  E 0 4 3 \$
iOS/MAC/WINDOWS  F 0 6 8 \$	Android  F 0 6 7 \$

USB-HID 接続

必要に応じて、キーボードオプションの設定を行ってください。

USB-HID  C 0 0 8 \$		
キーボードオプション		
英語キーボード(*)  C 0 1 0 \$	日本語キーボード  C 0 0 9 \$	ALT シークス  C 0 1 5 \$
CapsLock 切  A 0 0 4 \$	CapsLock 切(*)  A 0 0 5 \$	CapsLock 自動  A 0 0 6 \$
数字テンキー送信  D 0 1 7 \$		数字機能キー送信(*)  D 0 1 8 \$



キーボードオプションの設定(Bluetooth HID/USB-HID 共通)

キーボードオプション		
英語キーボード(*)  C 0 1 0 \$	日本語キーボード  C 0 0 9 \$	ALT シークス  C 0 1 5 \$
CapsLock 切  A 0 0 4 \$	CapsLock 切(*)  A 0 0 5 \$	CapsLock 自動  A 0 0 6 \$
数字テンキー送信  D 0 1 7 \$		数字機能キー送信(*)  D 0 1 8 \$




USB-COM 接続

USB-COM  C 0 0 6 \$
--

3. トリガモードの設定

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 F 0 0 5 \$	コンティニアスモード 読取 LED を常時点灯して、バースコードの読み取りを行います。	
 F 0 0 2 \$	レーザーモード トリガキーを押している間、読取 LED を点灯して、バースコードの読み取りを行います。	■

4. トリガボタンの設定





コマンドバースコード	説明	デフォルト
 F 0 6 4 \$	右トリガボタンのみ有効	
 F 0 6 5 \$	左トリガボタンのみ有効	
 F 0 6 6 \$	左右トリガボタンともに有効	■

5. レーザー/読取照明 LED の設定

レーザー又は照明 LED の何れかをオに設定することで電池の消費を抑え、動作時間を長くすることが可能です。但し、照明 LED をオにすると、周囲照明に依存した読み取りとなり、読み取り率の低下原因となりますので、運用には、十分ご注意ください。







コマンドバースコード	説明	デフォルト
 F 0 5 9 \$	レーザーオ&照明 LED 1 秒後オ	■
 F 0 4 9 \$	レーザーオ&照明 LED 自動適応	
 F 0 4 8 \$	レーザーオ&照明 LED オ	
 F 0 4 7 \$	レーザーオ&照明 LED オ	
 F 0 4 6 \$	レーザーオ&照明 LED オ	

6. ビープの設定






コマンドバーコード	説明	デフォルト
 F 0 1 2 \$	ビープ無し	
 F 0 1 9 \$	ビープ高音	
 F 0 1 8 \$	ビープ中音	■
 F 0 2 2 \$	ビープ低音	

7. 送信遅延の設定

読取データ間送信遅延

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 B 0 0 1 \$	0 ミリ秒	■
 B 0 0 2 \$	10 ミリ秒	
 B 0 0 3 \$	50 ミリ秒	
 B 0 0 4 \$	100 ミリ秒	
 B 0 0 5 \$	200 ミリ秒	
 B 0 0 6 \$	500 ミリ秒	




キャラクタ間送信遅延

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 B 0 1 0 \$	140 マイクロ秒	■
 B 0 1 1 \$	500 マイクロ秒	
 B 0 1 2 \$	1 ミリ秒	
 B 0 1 3 \$	4 ミリ秒	
 B 0 1 4 \$	16 ミリ秒	

8. データフォーマットの設定



ターミネータ

送信フォーマット					
プリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D 0 1 0 \$	無し	
 D 0 1 1 \$	LF	
 D 0 1 2 \$	CR (インターキー)	■ (HID)
 D 0 1 3 \$	CR+LF	■ (VCP)
 D 0 1 4 \$	TAB	
 D 0 1 5 \$	入°-入	
 D 0 1 6 \$	ESC	

読取データ桁数

送信フォーマット					
プリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D 0 2 0 \$	無し	■
 D 0 1 9 \$	有り (2桁送信 ex: 5桁=05)	

フリアンブルホストアンブル

送信フォーマット					
フリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
	無し(全クリア)	■
	<u>フリアンブル</u> 「フリアンブル」をスキップし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキーバーコード」から 16 文字以内でスキップし、最後に「フリアンブル」を再度スキップします。例えば、@@に設定したい場合は、「フリアンブル」「@」「@」「フリアンブル」の順にスキップします。	
	<u>ホストアンブル</u> 「ホストアンブル」をスキップし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキーバーコード」から 16 文字以内でスキップし、最後に「ホストアンブル」を再度スキップします。例えば、##に設定したい場合は、「ホストアンブル」「#」「#」「ホストアンブル」の順にスキップします。	

コード ID

送信フォーマット					
フリアンブル	コード ID	読取データ桁数	読取データ	ホストアンブル	ターミネータ

コマンドバーコード	説明	デフォルト
	無し	■
	既定コード ID	
	AIMコード ID	
	ユーザコード ID(次頁の「ユーザコード ID」を参照)	

























バーコードシンボル	規定コード ID	AIM ID	バーコードシンボル	規定コード ID	AIM ID
GS1-128	T	JC1	MSI	O	JM0
コード 128	K	JC0	MSI MOD10 CD 送信無し		JM1
EAN8	S	JE4	コード 32	B	JX0
EAN8 7ドット 2		JE4	コードバー(NW7)	N	JF0
EAN8 7ドット 5	E	JE0	コードバー CD 送信有り		JF2
UPCE		JE3	コードバー CD 送信無し	JF4	
UPCE 7ドット 2		JE3	UK Plessey	P	JP0
UPCA	A	JE0	マトリクス 2/5	Y	JX0
UPCA 7ドット 2		JE3	コード 39 フルアスキー CD 無し	D	JA4
UPCA 7ドット 5		JE3	コード 39 フルアスキー CD 送信有り		JA5
EAN13	F	JE0	コード 39 フルアスキー CD 送信無し		JA7
EAN13 7ドット 2		JE3	コード 39 CD 無し	M	JA0
EAN13 7ドット 5		JE3	コード 39 CD 送信有り		JA1
コード 93	L	JG0	コード 39 CD 送信無し		JA3
コード 11 CD 無し	J	JH0	IATA2/5	R	JR0
コード 11 1CD 送信		JH0	インタストリアル 2/5	V	JS0
コード 11 2CD 送信		JH1	チャイボスト 2/5	H	JX0
コード 11 CD 送信無し		JH3	インターブド 2/5 CD 無し		JI0
Telepen ASCII		U	JB0	インターブド 2/5 CD 送信有り	I
Telepen Numeric	JB1		インターブド 2/5 CD 送信無し		JI3

ユーザ -コード ID



下記の手順に従って、ユーザ -コード ID を設定します。

1. ユーザ -コード ID を設定したい「パ -コード シンボル」をスキャンします。
2. 続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキー -コード」から 2 文字以内でスキャンします。
3. 最後に「パ -コード シンボル」を再度スキャンします。


例えば、コード 39 のユーザ -コード ID を##に設定したい場合は、「コード 39」「#」「#」「コード 39」の順にスキャンします。

パ -コード シンボル		
EAN13  . P 0 0 1 \$	EAN8  . P 0 0 2 \$	UPCE  . P 0 0 3 \$
UPCA  . P 0 0 4 \$	コード 39  . P 0 0 5 \$	コード 93  . P 0 1 3 \$
コーダバ - (NW7)  . P 0 0 7 \$	IATA  . P 0 2 1 \$	コード 128  . P 0 1 0 \$
GS1-128  . P 0 1 6 \$	Telepen  . P 0 2 2 \$	コード 11  . P 0 0 9 \$
コード 32  . P 0 1 1 \$	ファイボ - スト  . P 0 1 2 \$	MSI  . P 0 1 4 \$
UK Plessey  . P 0 1 5 \$	マトリクス 2/5  . P 0 1 7 \$	インタ - リプト 2/5  . P 0 0 6 \$
インタ - ストリアル 2/5  . P 0 1 8 \$	コード 39 フルアスキー  . P 0 0 8 \$	GS1 Databar Limited  . P 0 1 9 \$
GS1 Databar Expanded  . P 0 2 0 \$	GS1 Databar  . P 0 2 4 \$	予備  . P 0 2 0 \$

9. 反転パ -コード 読み取りの設定

コマンドパ -コード	説明	デフォルト
 . D 0 2 1 \$	無し	■
 . D 0 2 2 \$	有り	

10. 読取照合回数 の設定

コマンドパ -コード	説明	デフォルト
 . A 0 1 0 \$	読取照合回数 「読取照合回数」をスキャンし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A.フルアスキー -コード」から 1~9 の範囲で数字をスキャンし、最後に「読取照合回数」を再度スキャンします。例えば、9 回に設定したい場合は、「読取照合回数」「9」「読取照合回数」の順にスキャンします。	1

11. キーボード (HID) の設定

キーボードレイアウト



本書では、下記の 3 種のみを掲載しています。その他のレイアウトをご希望の場合は、お問い合わせください。

USA (英語)  . C 0 1 0 \$	日本語  . C 0 0 9 \$	ALT シフト  . C 0 1 5 \$
--	--	--

CAPS ロック



CAPS ロック  . A 0 0 4 \$	CAPS ロック  . A 0 0 5 \$	そのまま送信  . A 0 0 6 \$
---	--	---

数字データ送信



データとして送信  . D 0 1 7 \$	キーデータとして送信  . D 0 1 8 \$
---	--

ファンクションキー変換

ファンクションキー変換を無効にした場合、「補足 A. アルファベットコード表」でファンクションキーとしてアルファベットコードされたデータがそのまま送信されます。例えば、有効な場合、「\$TA」は、F1 キーとして送信されますが、無効な場合、\$TA とそのまま送信されます。

有効  . C 0 1 9 \$	無効  . C 0 2 0 \$
--	--

HT/CR/ESC→TAB/ENTER/ESCAPE 変換

有効  . D 0 2 5 \$ HT[\$I],CR[\$M],ESC[%A]は、それぞれキーボードの <TAB>, <ENTER>, <ESC>キーとして送信されます。	無効  . D 0 2 6 \$ HT[\$I],CR[\$M],ESC[%A]は、それぞれ <0x09>, <0x0D>, <0x1B>として送信されます。
--	---

12. メモリー

メモリーでは、読み取ったデータは、リーダの不揮発性メモリーにテキストファイル「BARCODE.TXT」として保存されます。付属のmicroUSBケーブルでホストPCと接続することで、リーダはリムーバブルディスク「MiniScan」として認識されます。「BARCODE.TXT」をそのままオープンして利用するか、別のフォルダへコピーして利用ください。他のインターフェイスに設定すると、メモリーを終了します。

メモリー (2MB, JAN13 約2万コード保存可能)



最後の読取データを削除

ファンクションボタンを押すか、下記のコマンドバーコードをスキャンすることで、最後に読み取ったデータをメモリーから削除することができます。

最後の読取データを削除



コードフォーマット


デフォルトのコードフォーマットを変更したい場合は、設定を行ってください。

デフォルトコードフォーマット
<日付>, <時刻>, <読取データ>

コマンドバーコード	説明	デフォルト								
	<p>コードフォーマット</p> <p>「コードフォーマット」をスキャンし、続けて、送信したいフィールドに対応する数字を数値バーコードで順番にスキャンし、最後に「コードフォーマット」を再度スキャンします。例えば、<読取データ><日付><時刻>の順に送信したい場合は、「コードフォーマット」「4」「2」「3」「コードフォーマット」の順にスキャンします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>フィールド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>日付</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>時刻</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>読取データ</td> </tr> </tbody> </table>	番号	フィールド	2	日付	3	時刻	4	読取データ	
番号	フィールド									
2	日付									
3	時刻									
4	読取データ									



フィールドセパレータ

フィールドを区切るセパレータを設定します。デフォルトは、「;」です。












コマンドバースト	説明	デフォルト
 R 0 1 0 \$	フィールドセパレータ 「フィールドセパレータ」をスキャンし、続けて、送信したいキャラクタを「補足 A. アルファベットコード表」からスキャンし、最後に「フィールドセパレータ」を再度スキャンします。例えば、「;」の順に送信したい場合は、「フィールドセパレータ」「;」「フィールドセパレータ」の順にスキャンします。	; (カンマ)

日付・時刻設定

内蔵リアルタイムクロックの設定を行います。バッテリーが完全に無くなると、リアルタイムクロックの値を保持できません。バッテリーが完全に無くなった場合は、充電後、リアルタイムクロックの再設定を行ってください。

コマンドバースト	説明	デフォルト
 R 0 0 6 \$	日付設定 「日付設定」をスキャンし、続けて、送信したい日付 (YYMMDD) を数値バーストでスキャンし、最後に「日付設定」を再度スキャンします。例えば、2017年7月25日に設定したい場合は、「日付設定」「1」「7」「0」「7」「2」「5」「日付設定」の順にスキャンします。	
 R 0 0 7 \$	時刻設定 「時刻設定」をスキャンし、続けて、時刻 (HHMMSS) を数値バーストでスキャンし、最後に「時刻設定」を再度スキャンします。例えば、14時10分30秒に設定したい場合は、「時刻設定」「1」「4」「1」「0」「3」「0」「時刻設定」の順にスキャンします。	












数値バースト

0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$



日付・時刻フォーマット

フォーマットコード	説明	デフォルト																																				
 . R 0 0 8 \$	<p><u>日付フォーマット</u></p> <p>「日付フォーマット」をスキャンし、続けて、送信したい日付フォーマットに対応する数字を数値フォーマットでスキャンし、最後に「日付フォーマット」を再度スキャンします。例えば、DD/MM/YYYY=09 したい場合は、「日付フォーマット」「0」「9」「日付フォーマット」の順にスキャンします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>日付フォーマット</th> <th>番号</th> <th>日付フォーマット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>01</td> <td>DD-MM-YYYY</td> <td>09</td> <td>DD/MM/YYYY</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>MM-DD-YYYY</td> <td>10</td> <td>MM/DD/YYYY</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>DD-MM-YY</td> <td>11</td> <td>DD/MM/YY</td> </tr> <tr> <td>04</td> <td>MM-DD-YY</td> <td>12</td> <td>MM/DD/YY</td> </tr> <tr> <td>05</td> <td>YYYY-MM-DD</td> <td>13</td> <td>YYYY/MM/DD</td> </tr> <tr> <td>06</td> <td>YY-MM-DD</td> <td>14</td> <td>YY/MM/DD</td> </tr> <tr> <td>07</td> <td>DD-MM</td> <td>15</td> <td>DD/MM</td> </tr> <tr> <td>08</td> <td>MM-DD</td> <td>16</td> <td>MM/DD</td> </tr> </tbody> </table>	番号	日付フォーマット	番号	日付フォーマット	01	DD-MM-YYYY	09	DD/MM/YYYY	02	MM-DD-YYYY	10	MM/DD/YYYY	03	DD-MM-YY	11	DD/MM/YY	04	MM-DD-YY	12	MM/DD/YY	05	YYYY-MM-DD	13	YYYY/MM/DD	06	YY-MM-DD	14	YY/MM/DD	07	DD-MM	15	DD/MM	08	MM-DD	16	MM/DD	
番号	日付フォーマット	番号	日付フォーマット																																			
01	DD-MM-YYYY	09	DD/MM/YYYY																																			
02	MM-DD-YYYY	10	MM/DD/YYYY																																			
03	DD-MM-YY	11	DD/MM/YY																																			
04	MM-DD-YY	12	MM/DD/YY																																			
05	YYYY-MM-DD	13	YYYY/MM/DD																																			
06	YY-MM-DD	14	YY/MM/DD																																			
07	DD-MM	15	DD/MM																																			
08	MM-DD	16	MM/DD																																			
 . R 0 0 9 \$	<p><u>時刻フォーマット</u></p> <p>「時刻フォーマット」をスキャンし、続けて、送信したい時刻フォーマットに対応する数字を数値フォーマットでスキャンし、最後に「時刻フォーマット」を再度スキャンします。例えば、HH:MM:SS=01 したい場合は、「時刻フォーマット」「0」「1」時刻フォーマット」の順にスキャンします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>時刻フォーマット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>01</td> <td>HH:MM:SS</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>HH:MM</td> </tr> </tbody> </table>	番号	時刻フォーマット	01	HH:MM:SS	02	HH:MM																															
番号	時刻フォーマット																																					
01	HH:MM:SS																																					
02	HH:MM																																					

数値フォーマット

0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  . P 0 2 3 \$












8. 読み取りバーコードの設定

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 A 0 0 2 \$	全てのバーコードを読み取る	
 A 0 0 3 \$	全てのバーコードを読み取らない	




















チャイホスト

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 K 0 0 1 \$	読み取り有り	
 K 0 0 2 \$	読み取り無し	■
 K 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 K 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 K 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 K 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をダイヤルし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最小桁数」を再度ダイヤルします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にダイヤルします。	11
 K 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をダイヤルし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最大桁数」を再度ダイヤルします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にダイヤルします。	48





数値バーコード

0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

MSI

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 L 0 0 1 \$	読み取り有り	
 L 0 0 2 \$	読み取り無し	■
 L 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	■
 L 0 0 3 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 L 0 0 7 \$	チェックビットダブルMod10	
 L 0 0 8 \$	チェックビットダブルMod11&10	
 L 0 0 9 \$	チェックビットシングルMod10	■
 L 0 0 5 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をキャンセルし、続けて、数値バースコードで設定したい桁数をキャンセルし、最後に「読取最小桁数」を再度キャンセルします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にキャンセルします。	6
 L 0 0 6 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をキャンセルし、続けて、数値バースコードで設定したい桁数をキャンセルし、最後に「読取最大桁数」を再度キャンセルします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にキャンセルします。	48
数値バースコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$





UK Plessey

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 L 0 1 0 \$	読み取り有り	
 L 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 L 0 1 2 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 L 0 1 3 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	■

コード 93

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 G 0 1 0 \$	読み取り有り	
 G 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 G 0 1 2 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をダイヤルし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最小桁数」を再度ダイヤルします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にダイヤルします。	6
 G 0 1 3 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をダイヤルし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最大桁数」を再度ダイヤルします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にダイヤルします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$










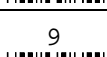

Telepen

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 L 0 1 4 \$	読み取り有り	
 L 0 1 5 \$	読み取り無し	■
 L 0 2 0 \$	ASCII タイプ	■
 L 0 2 1 \$	Numeric タイプ	






IATA

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 N 0 1 7 \$	読み取り有り	
 N 0 1 8 \$	読み取り無し	■
 N 0 1 9 \$	チェックビット検査無し	■
 N 0 2 0 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 N 0 2 1 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 N 0 2 2 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をキャンセル、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をキャンセル、最後に「読取最小桁数」を再度キャンセルします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にキャンセルします。	6
 N 0 2 3 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をキャンセル、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をキャンセル、最後に「読取最大桁数」を再度キャンセルします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にキャンセルします。	48




















数値バーコード

0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

インターリード 2/5

コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 J 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 J 0 0 2 \$	読み取り無し	
 J 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 J 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 J 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 J 0 0 8 \$	先頭桁削除	
 J 0 0 9 \$	最終桁削除	
 J 0 1 4 \$	先頭桁/最終桁削除無し	■
 J 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 J 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

コード 11

コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 1 0 1 0 \$	読み取り有り	
 1 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 1 0 1 2 \$	チェックビット検査無し	■
 1 0 1 3 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 1 0 4 2 \$	チェックビット検査有り & 送信有り(1桁)	
 1 0 4 3 \$	チェックビット検査有り & 送信有り(2桁)	
 1 0 1 4 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 1 0 1 5 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 1 0 1 6 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	32
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

インダストリアル 2/5

コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 N 0 0 1 \$	読み取り有り	
 N 0 0 2 \$	読み取り無し	■
 N 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 N 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 N 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 N 0 0 6 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 N 0 0 7 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

マトリクス 2/5























コマンドバ -コード	説明	デフォルト
 M 0 1 0 \$	読み取り有り	
 M 0 1 1 \$	読み取り無し	■
 M 0 1 2 \$	チェックビット検査無し	■
 M 0 1 3 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 M 0 1 4 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 M 0 1 5 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 M 0 1 6 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

コードバー-(NW7)





















コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 1 0 0 2 \$	読み取り無し	
 1 0 0 5 \$	チェックビット検査無し	■
 1 0 0 6 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 1 0 0 7 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 1 0 0 8 \$	<u>読取最小桁数</u> 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	6
 1 0 0 9 \$	<u>読取最大桁数</u> 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バーコードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バーコード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

コマンドバースト	説明	デフォルト
 1030\$	スタート/ストップ° abcd/abcd	
 1029\$	スタート/ストップ° ABCD/ABCD	■
 1031\$	スタート/ストップ° ABCD/TN*E	
 1032\$	スタート/ストップ° abcd/tn*e	
 1003\$	スタート/ストップ° 送信有り	■
 1004\$	スタート/ストップ° 送信無し	
 1027\$	CLSI フォーマット変換有り	
 1028\$	CLSI フォーマット変換無し	■

















コード 39

コードバ -コード	説明	デフォルト
 G 0 0 8 \$	読み取り有り	■
 G 0 0 9 \$	読み取り無し	
 G 0 0 2 \$	ファスキー無し	
 G 0 0 1 \$	ファスキー有り	■
 G 0 1 5 \$	スタート/ストップ 送信無し	■
 G 0 1 4 \$	スタート/ストップ 送信有り	
 G 0 0 3 \$	チェックビット検査無し	■
 G 0 0 4 \$	チェックビット検査有り & 送信有り	
 G 0 0 5 \$	チェックビット検査有り & 送信無し	
 G 0 0 6 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をダイヤルし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最小桁数」を再度ダイヤルします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にダイヤルします。	1
 G 0 0 7 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をダイヤルし、続けて、数値バ -コード で設定したい桁数をダイヤルし、最後に「読取最大桁数」を再度ダイヤルします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にダイヤルします。	48
数値バ -コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$















UPC-E

コマンドバrcode	説明	デフォルト
 H 0 0 7 \$	読み取り有り	■
 H 0 0 8 \$	読み取り無し	
 H 0 1 0 \$	先頭桁送信無し	
 H 0 0 9 \$	先頭桁送信有り	■
 H 0 1 2 \$	チェックビット送信無し	
 H 0 1 1 \$	チェックビット送信有り	■
 H 0 3 8 \$	アドカ5 読み取り無し	■
 H 0 3 7 \$	アドカ5 読み取り有り	
 H 0 4 0 \$	アドカ2 読み取り無し	■
 H 0 3 9 \$	アドカ2 読み取り有り	
 H 0 4 8 \$	アドカセパレタ無し	■
 H 0 4 7 \$	アドカセパレタ有り (スパス)	
 H 0 5 5 \$	アドカ必須読み取り無し	■
 H 0 5 6 \$	アドカ必須読み取り有り	
 H 0 6 4 \$	UPC-E0 読み取り無し	
 H 0 6 3 \$	UPC-E0 読み取り有り	■
 H 0 6 5 \$	UPC-E1 読み取り無し	■
 H 0 6 6 \$	UPC-E1 読み取り有り	
 H 0 5 4 \$	UPC-A 変換無し	■
 H 0 5 3 \$	UPC-A 変換有り	



















UPC-A

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 H 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 H 0 0 2 \$	読み取り無し	
 H 0 0 4 \$	先頭桁送信無し	
 H 0 0 3 \$	先頭桁送信有り	■
 H 0 0 6 \$	チェックゾット送信無し	
 H 0 0 5 \$	チェックゾット送信有り	■
 H 0 3 4 \$	アドカ5 読み取り無し	■
 H 0 3 3 \$	アドカ5 読み取り有り	
 H 0 3 6 \$	アドカ2 読み取り無し	■
 H 0 3 5 \$	アドカ2 読み取り有り	
 H 0 4 6 \$	アドカセパレータ無し	■
 H 0 4 5 \$	アドカセパレータ有り (スパス)	
 H 0 5 9 \$	アドカ必須読み取り無し	■
 H 0 6 0 \$	アドカ必須読み取り有り	
 H 0 6 7 \$	EAN-13 変換無し	■
 H 0 6 8 \$	EAN-13 変換有り	

EAN-8

コマンドバールコード	説明	デフォルト
 H 0 1 9 \$	読み取り有り	■
 H 0 2 0 \$	読み取り無し	
 H 0 2 2 \$	先頭桁送信無し	
 H 0 2 1 \$	先頭桁送信有り	■
 H 0 2 4 \$	チェックビット送信無し	
 H 0 2 3 \$	チェックビット送信有り	■
 H 0 3 0 \$	アドカ5 読み取り無し	■
 H 0 2 9 \$	アドカ5 読み取り有り	
 H 0 3 2 \$	アドカ2 読み取り無し	■
 H 0 3 1 \$	アドカ2 読み取り有り	
 H 0 4 4 \$	アドカセパレタ無し	■
 H 0 4 3 \$	アドカセパレタ有り (スペース)	
 H 0 6 1 \$	アドカ必須読み取り無し	■
 H 0 6 2 \$	アドカ必須読み取り有り	

EAN-13

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 H 0 1 3 \$	読み取り有り	■
 H 0 1 4 \$	読み取り無し	
 H 0 1 6 \$	先頭桁送信無し	
 H 0 1 5 \$	先頭桁送信有り	■
 H 0 1 8 \$	チェックゾット送信無し	
 H 0 1 7 \$	チェックゾット送信有り	■
 H 0 2 6 \$	アドカ5 読み取り無し	■
 H 0 2 5 \$	アドカ5 読み取り有り	
 H 0 2 8 \$	アドカ2 読み取り無し	■
 H 0 2 7 \$	アドカ2 読み取り有り	
 H 0 4 2 \$	アドカセパレータ無し	■
 H 0 4 1 \$	アドカセパレータ有り (スー-ス)	
 H 0 5 7 \$	アドカ必須読み取り無し	■
 H 0 5 8 \$	アドカ必須読み取り有り	
 H 0 5 0 \$	ISBN 変換無し	■
 H 0 4 9 \$	ISBN 変換有り	
 H 0 5 2 \$	ISSN 変換無し	■
 H 0 5 1 \$	ISSN 変換有り	

コード 128

コードバール	説明	デフォルト
 J 0 1 0 \$	読み取り有り	■
 J 0 1 1 \$	読み取り無し	
 J 0 1 2 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バールで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	5
 J 0 1 3 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バールで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	48
数値バール		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$

GS1-128

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 M 0 0 1 \$	読み取り有り	■
 M 0 0 2 \$	読み取り無し	
 M 0 0 4 \$	IC1 送信無し	■
 M 0 0 3 \$	IC1 送信有り	
 M 0 0 6 \$	GS (FNC1) 送信無し	■
 M 0 0 5 \$	GS (FNC1) 送信有り	
 M 0 0 7 \$	GS 置換キャラクタ 「GS 置換キャラクタ」をスキャンし、続けて、設定したいキャラクタを「補足 A. フルアスキーバーコード」から 1 文字スキャンし、最後に「GS 置換キャラクタ」を再度スキャンします。例えば、@に設定したい場合は、「GS 置換キャラクタ」@「GS 置換キャラクタ」の順にスキャンします。	

🔗 GS1-128 を読み取る場合は、コード 128 も読み取り有りに設定してください。

GS1 Databar – Omni & Stacked

コマンドバーコード	説明	デフォルト
. N 0 3 2 \$	読み取り有り	
. N 0 3 3 \$	読み取り無し	■
. N 0 3 5 \$	チェックビット送信無し	■
. N 0 3 4 \$	チェックビット送信有り	
. N 0 3 7 \$	アプリケーション ID(01)送信無し	■
. N 0 3 6 \$	アプリケーション ID(01)送信有り	
. N 0 3 9 \$	Stacked 読み取り無し	
. N 0 3 8 \$	Stacked 読み取り有り	■


































GS1 Databar – Limited













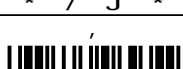

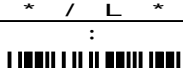

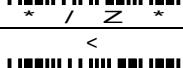
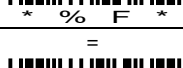

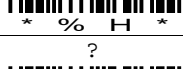

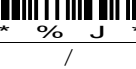
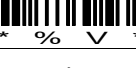












コマンドバーコード	説明	デフォルト
. N 0 1 0 \$	読み取り有り	
. N 0 1 1 \$	読み取り無し	■
. N 0 1 3 \$	チェックビット送信無し	■
. N 0 1 2 \$	チェックビット送信有り	
. N 0 2 5 \$	アプリケーション ID(01)送信無し	■
. N 0 2 4 \$	アプリケーション ID(01)送信有り	


















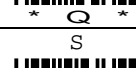

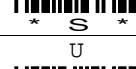










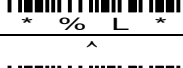
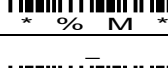



GS1 Databar – Expanded






























コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 N 0 2 6 \$	読み取り有り	
 N 0 2 7 \$	読み取り無し	■
 N 0 2 9 \$	Stacked 読み取り無し	
 N 0 2 8 \$	Stacked 読み取り有り	■
 N 0 3 0 \$	読取最小桁数 「読取最小桁数」をスキャンし、続けて、数値バ-コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最小桁数」を再度スキャンします。例えば、11 に設定したい場合は、「読取最小桁数」「1」「1」「読取最小桁数」の順にスキャンします。	1
 N 0 3 1 \$	読取最大桁数 「読取最大桁数」をスキャンし、続けて、数値バ-コードで設定したい桁数をスキャンし、最後に「読取最大桁数」を再度スキャンします。例えば、48 に設定したい場合は、「読取最大桁数」「4」「8」「読取最大桁数」の順にスキャンします。	74
数値バ-コード		
0 	1 	2 
3 	4 	5 
6 	7 	8 
9 		やり直し  P 0 2 3 \$






























補足 A. フラスキバコード表



















NUL  * % U *	SOH  * \$ A *
STX  * \$ B *	ETX  * \$ C *
EOT  * \$ D *	ENQ  * \$ E *
ACK  * \$ F *	BEL  * \$ G *
BS  * \$ H *	HT  * \$ I *
LF  * \$ J *	VT  * \$ K *
FF  * \$ L *	CR  * \$ M *
SO  * \$ N *	SI  * \$ O *
DLE  * \$ P *	DC1  * \$ Q *
DC2  * \$ R *	DC3  * \$ S *
DC4  * \$ T *	NAK  * \$ U *
SYN  * \$ V *	ETB  * \$ W *
CAN  * \$ X *	EM  * \$ Y *
SUB  * \$ Z *	ESC  * % A *
FS  * % B *	GS  * % C *
RS  * % D *	US  * % E *
やり直し  . P 0 2 3 \$	

SPACE  * *	!  * / A *
"  * / B *	#  * / C *
\$  * \$ *	%  * % *
&  * / F *	/  * / G *
( * / H *)  * / I *
*  * / J *	+  * + *
,  * / L *	-  * - *
:  * / Z *	;  * % F *
<  * % G *	=  * % H *
>  * % I *	?  * % J *
@  * % V *	/  * / *
.  * . *	0  * 0 *
1  * 1 *	2  * 2 *
3  * 3 *	4  * 4 *
5  * 5 *	6  * 6 *
7  * 7 *	8  * 8 *
9  * 9 *	A  * A *
やり直し  . P 0 2 3 \$	

B  * B *	C  * C *
D  * D *	E  * E *
F  * F *	G  * G *
H  * H *	I  * I *
J  * J *	K  * K *
L  * L *	M  * M *
N  * N *	O  * O *
P  * P *	Q  * Q *
R  * R *	S  * S *
T  * T *	U  * U *
V  * V *	W  * W *
X  * X *	Y  * Y *
Z  * Z *	[ * % K *
¥  * % L *]  * % M *
^  * % N *	-  * % O *
`  * % W *	a  * + A *
b  * + B *	c  * + C *
やり直し  . P 0 2 3 \$	

d  * + D *	e  * + E *
f  * + F *	g  * + G *
h  * + H *	i  * + I *
j  * + J *	k  * + K *
l  * + L *	m  * + M *
n  * + N *	o  * + O *
p  * + P *	q  * + Q *
r  * + R *	s  * + S *
t  * + T *	u  * + U *
v  * + V *	w  * + W *
x  * + X *	y  * + Y *
z  * + Z *	{  * % P *
  * % Q *	}  * % R *
~  * % S *	DEL  * % T *
やり直し  P 0 2 3 \$	

F1  * \$ T A *	F2  * \$ T B *
F3  * \$ T C *	F4  * \$ T D *
F5  * \$ T E *	F6  * \$ T F *
F7  * \$ T G *	F8  * \$ T H *
F9  * \$ T I *	F10  * \$ T J *
F11  * \$ T K *	F12  * \$ T L *
Home  * \$ T M *	End  * \$ T N *
Enter (Enter)  * \$ T + D *	App  * \$ T + O *
→  * \$ T O *	←  * \$ T P *
↑  * \$ T Q *	↓  * \$ T R *
Page Up  * \$ T S *	Page Down  * \$ T T *
Tab  * \$ T U *	Back Tab  * \$ T V *
ESC  * \$ T W *	Enter  * \$ T X *
BS  * \$ T Y *	Ins  * \$ T Z *
やり直し  P 0 2 3 \$	

Del  * \$ T % K *	左 Alt Make  * \$ T % L *
左 Alt Break  * \$ T % M *	右 Alt Make  * \$ T + E *
右 Alt Break  * \$ T + F *	左 Shift Make  * \$ T % N *
左 Shift Break  * \$ T % O *	右 Shift Make  * \$ T + I *
右 Shift Break  * \$ T + J *	左 Windows Make  * \$ T + K *
左 Windows Break  * \$ T + L *	右 Windows Make  * \$ T + M *
右 Windows Break  * \$ T + N *	左 Ctrl Make  * \$ T % W *
左 Ctrl Break  * \$ T + A *	右 Ctrl Make  * \$ T + G *
右 Ctrl Break  * \$ T + H *	
やり直し  P 0 2 3 \$	

補足 A. ASCII コード 表

	0		1		2	3	4	5	6	7
0	NUL	^@	DLE	^P	SP	0	@	P	`	p
1	SOH	^A	DC1	^Q	!	1	A	Q	a	q
2	STX	^B	DC2	^R	"	2	B	R	b	r
3	ETX	^C	DC3	^S	#	3	C	S	c	s
4	EOT	^D	DC4	^T	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	^E	NAK	^U	%	5	E	U	e	u
6	ACK	^F	SYN	^V	&	6	F	V	f	v
7	BEL	^G	ETB	^W	'	7	G	W	g	w
8	BS	^H	CAN	^X	(8	H	X	h	x
9	HT	^I	EM	^Y)	9	I	Y	l	y
A	LF	^J	SUB	^Z	*	:	J	Z	j	z
B	VT	^K	ESC	^[+	;	K	[k	{
C	FF	^L	FS	^¥	,	<	L	¥	l	
D	CR	^M	GS	^]	-	=	M]	m	}
E	SO	^N	RS	^^	.	>	N	^	n	~
F	SI	^O	US	^_	/	?	O	_	o	DLE

補足 C. サンプルコード

コード 39



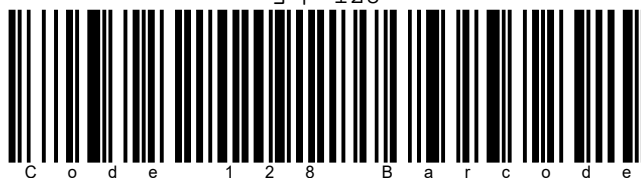
JAN-13



インターコード 2/5 (ITF)



コード 128



GS1-128



GS1 Databar インターコード



修理依頼書

修理を依頼される場合は、下記の用紙に必要事項を記入し、修理品と一緒に販売店へご返送ください。尚、修理は全てワット方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

弊社での修理は、ユニット（モジュール）単位の動作不良報告及び交換を行っています。故障原因調査・解析の報告は行っておりませんので、予めご了承ください。

修理依頼書			
依頼日			
会社名			
部署名			
担当者			
メールアドレス			
電話番号		F A X 番号	
ご住所			
販売店名		ご購入日	
製品型番（名称）			
製造番号（S/N）			
付属品	ケーブル[]・ACアダプタ		
<p>トラブルの症状を詳しく記入してください。 また、症状を確認するために必要なバーコードラベルや磁気カード等があれば、修理品に添付してお送りください。</p>			
症状発生頻度	: <input type="checkbox"/> 常に起こる	<input type="checkbox"/> 1日に [] 回程度	
インターフェイス	: <input type="checkbox"/> キーボード	<input type="checkbox"/> RS232C <input type="checkbox"/> USB	
		<input type="checkbox"/> その他	[]
接続ホスト	: メーカー	[]	[]
		型番	[]
その他、使用状況を記入ください。			
返送先			
見積・請求先			
<p>スポットサービス時は、修理見積後に修理をキャンセルされた場合に限り、見積料として弊社所定の料金を申し受けます。ご了承いただける場合は、押印の上、修理品に添付してご返送ください。</p>			ご確認印